



# 図書館だより



2024年  
4月26日発行

秋草学園高等学校 図書館

図書館の窓から見える桜の木も、すっかり新緑に輝いています。みなさん、新年度は順調にスタートできましたか？学習や部活にと集中して取り組めるようになったころだと思います。朝の読書も毎週月曜日に始まりました。たった10分間でも本の世界に触れることで、その後の一日を落ち着いた気持ちで過ごせるから不思議です。もし、読む本を選ぶのに困ってしまったら、図書館で司書と一緒に、あなたの興味をひく本を探してみませんか？

## 図書館で育てよう、芋づる式読書マップ

「芋づる式読書MAP」とは、岩波書店が公開した読書案内のテンプレートです。

まず、四角い枠の中に自分の好きな本を書き入れます。次に、その内容から連想されるキーワードを思い浮かべて「芋づる式」に思いついた本を近くのお芋に書きます。最後にその二つを線でつないで、共通するキーワードを書いたら終了です。

「一人でも埋められるけれど、誰かと一緒につくると新たな本との出会いがあってもっと楽しいかも」という思いから、秋草版の読書MAPを図書館前に設置しました！書名を書く用のお芋カードもあわせて置いてありますので、気軽に参加してください。裏面に仕上がっているMAPがあります。ご覧ください。

最初の1作目は、発案者の伊久美先生にお願いしました。ここから巨大な芋づるをみんなで育てましょう！

### 913.6-セ 『そして、バトンは渡された』 瀬尾 まいこ || 著 文藝春秋

大人の事情で目まぐるしく家庭環境が変わり、若くして4回も苗字が変わったという経歴を持つ優子。彼女は今、4人目の父・森宮さんと二人で暮らしている。

こうやって説明すると頭がこんがらがりそうですが、読んでみるとスッと理解できるから小説ってすごい！さっそくこの本を読書MAPに書いたので、思いついたキーワードを並べて紹介に代えさせてください。

「愛情」「家族」「継母」「父と娘」「音楽」「ピアノ」「料理」「食事」「変（普通じゃない）」「恋」「結婚」「バトン」「本屋大賞」「映画化」…と聞いて思いつく本があったら、ぜひ書き込みに来てください！



## 司書の今月はこの本読みました

韓国語になじみがないせいでしょうか、ヒュナムかヒョナムか、いつもわからなくなってしまいます。2024年本屋大賞翻訳部門第1位『ようこそ、ヒュナム洞書店へ』ファン・ボルム || 著 牧野美加 || 訳 集英社を読みました。読後に気がつきました、その些細にも思える題名の間違えは、テーマに関わるほどの大失態だったのです。そもそもこの物語は「ヒュ」から始まったのです。町にオープンしたカフェを併設する個人書店と、そこに集う優しい人々。紹介される本やその名言、開催されるトークイベントや読書会も魅力的で、心身が「休」まります。【鈴木】

## 2024年本屋大賞！

2024年本屋大賞に選ばれたのは！！  
913.6-ミ 『成瀬は天下を取りに行く』

宮島 未奈 || 著 新潮社



各賞を受賞し、この一年で一番目立っていた本ではないでしょうか。西武ライオンズのユニホームを着てテレビ中継の後ろに日々映りこんだかと思うと、コンビ“ゼゼカラ”を結成してR-1グランプリに挑む行動力。滋賀の女子高生、成瀬の全力で我が道を行く姿は、パワーを与えてくれます。

913.6-ミ 『成瀬は信じた道に行く』

宮島 未奈 || 著 新潮社

本屋大賞1位の『成瀬は天下を取りに行く』には続編があります。父や“ゼゼカラ”を推す小学生や近所の主婦視点で語られる成瀬。「何になるかより、何をやるかのほうが大事だと思っている」大学生の成瀬も、パワフルです。

## 新着コーナーの気になる本

498-カ 『61歳で大学教授やめて、北海道で「へき地のお医者さん」はじめました』

香山 リカ || 著 集英社

東京で大学教員や精神科医、執筆活動やテレビ出演もしていた香山リカさんのエッセイ。今までのキャリアから、へき地の診療所で臨床医として働くことを選んだ理由や経緯が語られています。

914.6-ミ 『好きになってしまいました。』

三浦 しをん || 著 大和書房

『舟を編む』『風が強く吹いている』などの著者 三浦しをんさんのエッセイ集。日常生活では可愛い植物たちのため虫や鳥と戦い、旅先では人との出会いや思いがけない体験を楽しみ、読書記録では夏目漱石のツンデレっぷりを語り、読む人に笑いと元気を分けてくれる一冊。

